

# 国土交通省直轄土木工事における 工事成績評定の分析結果について

国土交通省大臣官房技術調査課



## 概要

平成17年4月に「公共工事の品質確保の促進に関する法律」が制定され、公共工事の発注者においては施工状況の評価の実施が規定されたところです。

また、工事成績評定は、その結果が次回以降の入札資格要件や技術力評価の一要素であり、品質向上の観点から発注者・受注者の双方にとってその重要性は今後さらに高まるものと考えられます。

そのため、国土交通省では、工事成績評定の適切な理解と客観性の評価等を目的として、過去の直轄工事における工事成績評定のデータをもとに、さまざまな観点から、その特性と客観性の分析を行い、結果とりまとめ、国土交通省のホームページに掲載しましたのでお知らせ致します。



## 分析対象工事

平成15年度に完成した国土交通省直轄土木工事（管繕事業，港湾・空港事業を除く）。



## 主な分析結果（別紙参照）

- ・工事成績評定点（地方整備局全体）の平均点は約74点である。
- ・工事成績評定は、落札率が低くなるほど評定点が低くなる傾向にある。
- ・中間技術検査を実施した工事は実施していない工事より工事成績評定が高く、実施回数が多いほど、評定点が高くなる傾向にある。

分析結果の詳細については、国土交通省のホームページ（<http://www.mlit.go.jp/tec/nyuusatu/keiyaku.html>）に掲載予定です。

## 工事成績評定点の分布状況

・工事成績評定点(地方整備局全体)の平均点は約74点である。

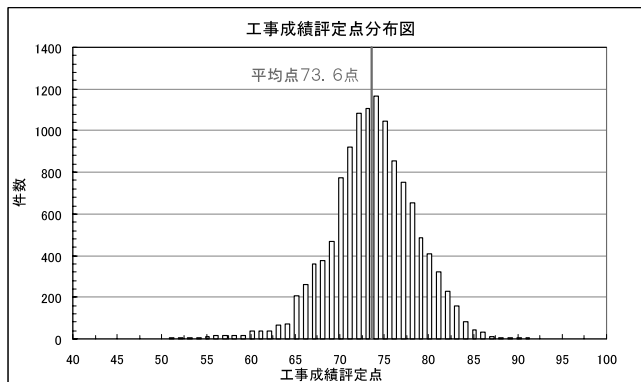


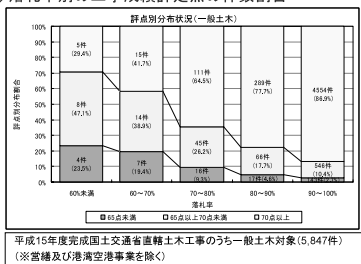
図 工事成績評定点の分布

平成15年度完成国土交通省直轄土木工事対象(12,176件)  
 (※宮崎、港湾空港事業を除く)

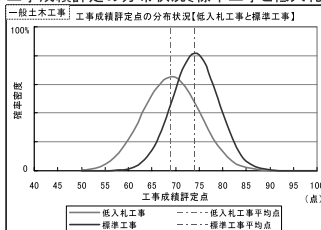
## 落札率と工事成績評定点の関係

・落札率は低くなるほど工事成績評定点が低くなる傾向にある。  
 ・特に、落札率が低くなるほど65点未満の点数を取る割合が増大し、70点以上の点数を取る割合が減少する。

◇落札率別の工事成績評定点の件数割合



◇工事成績評定の分布状況【標準工事と低入札工事比較】



◇落札率毎の母集団の相異(T検定・尤度比検定による分析)

・T検定や尤度比検定による分析により、落札率の範囲毎(100~90%、90~80%、80~70%、70%未満)の各母集団は、平均値や標準偏差の観点から異なる集合である。

【T検定】：2つの母集団の平均に差があるかについて分析する統計的手法  
 【尤度比検定】：2つの母集団に関してた仮説(ex平均値、標準偏差)について仮説が尤もらしいかを比較・分析する際に用いられる統計的手法

※標準工事:当初契約金額が調査基準価格以上である工事  
 ※低入札工事:当初契約金額が調査基準価格を下回る工事  
 ※調査基準価格=(直接工事費)+(共通仮設費)+(現場管理費の1/5)

## 中間技術検査を実施している工事の工事成績評定について

・中間技術検査を実施した工事は、実施しない工事より工事成績評定が高い。  
 ・中間技術検査の実施回数が多い程工事成績評定が高くなる傾向にある。

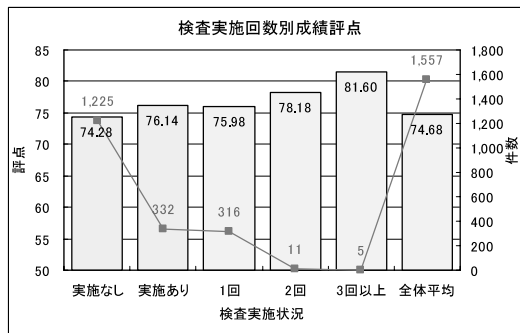


図 中間技術検査実施回数別の工事成績評定

平成15年度完成関東・北陸・中部地方整備局発注土木工事のうち一般土木対象(1,630件) (※宮崎、港湾空港事業を除く)